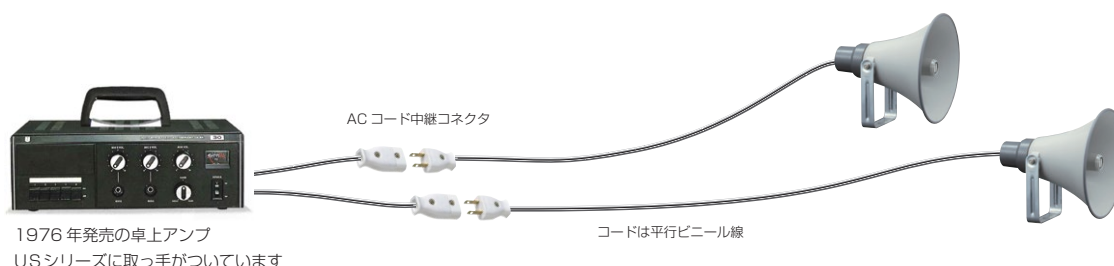


Carrying Amplifier



カバンの取手が付いたアンプ

CGA-200DA



昭和 55 年（1980）頃、まだ「キャリングアンプ」はなく、お客様が持ち運びしやすいようにアンプのケースに鞆用の取手を取り付けられていました。機材の設置と撤収に時間をかけることができず、簡単に持ち運べ素早くセッティングができるようにとのアイデアから工夫されていたそうです。

スピーカーもトランペット形のものを箱に収納して運んでいました。

スピーカーは家庭用電源コードに使われる平行線と AC コードコネクタでアンプに接続されています。

上図のようなシステムです。

AC コードコネクタを利用することで、アンプとスピーカーの結線にドライバーなどの工具が不要になりました。AC コードコネクタというのは家庭電源用プラグとコンセントのことですが、スピーカー側にはプラグが付いていますので、このプラグを AC100V 電源コンセントに繋ぐと、何かの音が出る機械だと思った人もおられたようですが、スピーカーが破損したり感電することもあり、大変危険ですので絶対におやめ下さい。

オプションユニットが内蔵できるアンプをアルミケースに収納

しばらくすると、アタッシュケースにカセットデッキを入れたアンプが出てきましたが、音声出力はそれほど大きくありませんでした。その頃、当社では卓上アンプとして CPA シリーズというオプションユニットが入るアンプが新発売されました（現在の BX シリーズ）。カセットやラジオ、ワイヤレスチューナーが内蔵できる卓上アンプです。

1978 年発売
CPA シリーズ



発売中
BX シリーズ



これを見たお客様からこのアンプをケースに入れて持ち運びできるものを作れないか、とご相談を受け、サービスバック（修理用の工具などを入れるアルミケース）にこのアンプとミキサーを固定し、空いたスペースに緩衝材を貼り付けたことがありました。

簡易な PA システムを素早く設置でき、より安全に、より丈夫にできないかというニーズがあり、これにお応えしたのがキャリングアンプでした。

最初のキャリングアンプは昭和 56 年（1981）に発売されました。

キャリングアンプはイベント用としてお使い頂き、トランペット形スピーカーやワイドレンジスピーカーと組み合わせて手軽に持ち運びができる移動型放送設備として大変重宝されました。

その後、何度もリニューアルされ、現在のシリーズでは文教関係でも使って頂けるよう、パワーと音質ともにアップし、更に CD や SD などのプレーヤーも装備しました。最新の製品ではデジタル方式のアンプを採用し、小型で大出力（100W+100W）も実現しています。

キャリングアンプという名称ですが、今ではコンパクト PA システムを超える仕様に成長しています。

初代キャリングアンプ



昭和 56 年（1981）発売
CGA-152

初代キャリングアンプをご紹介します。写真は昭和 56 年の 3 月に発行された CGA-152 のカタログです。

定格出力は 30W です。

入出力関係は当初からキャノンコネクターを使い、開発コンセプトとして高級感、プロ仕様を意識されていました。コードマイクは 2 本、スピーカー出力はハイインピーダンス出力が 2 系統があり、それぞれにアッテネーターが付いているという当時としては画期的で便利な機能がありました。

また電源も AC100V 以外に DC12V で動作させることができ、カーバッテリーでも使えました。

卓上アンプにオプション機器をユニットで装着する考え方はこの頃からあり、今ではほとんど見ることがない 8トラックテープのプレーヤー（昔のカラオケに使っていた）、カセットプレーヤー、そしてワイヤレスチューナーユニットを搭載することができました。ワイヤレス機器の周波数は当時 40MHz でしたが、その後一時的に 200MHz の機器が販売され、現在の 300MHz と 800MHz がワイヤレスマイクに使用できる周波数として認可されました。

その時に CGA アンプとセットして販売されていたスピーカーにはソノコラムスピーカーもありました。サイズも大きく、スタンドに取り付けるのにも手間がかかりましたが、トランペット型より音質が良いと、ご好評を頂いていました。

現在のキャリングアンプ



CGA-200DB
Digital 方式



※CDプレーヤーはギャップレス再生に対応していません。



CGA-704CDA/134CDA
ハイ・ローインピーダンス両対応



※CDプレーヤーはギャップレス再生に対応していません。



※CDプレーヤーはギャップレス再生に対応していません。

両シリーズとも USB/SD の再生に対応した CD プレーヤーとワイヤレスチューナーを 4 台まで内蔵することができ、ワイヤレスチューナーは 300MHz、800MHz に対応しています。

200 シリーズはローインピーダンス専用デジタル方式のアンプを採用し、100W+100W (4Ω) の音声出力です。

704CDA は 35W+35W、134CDA は 65W+65W の音声出力で、ハイインピーダンスのスピーカー出力もあります。704CDA は DC12V (カーバッテリー) でも動作することができます。

スピーカーシステム EWS-120 は防滴仕様になり、突然の雨でも安心です。

設置例

